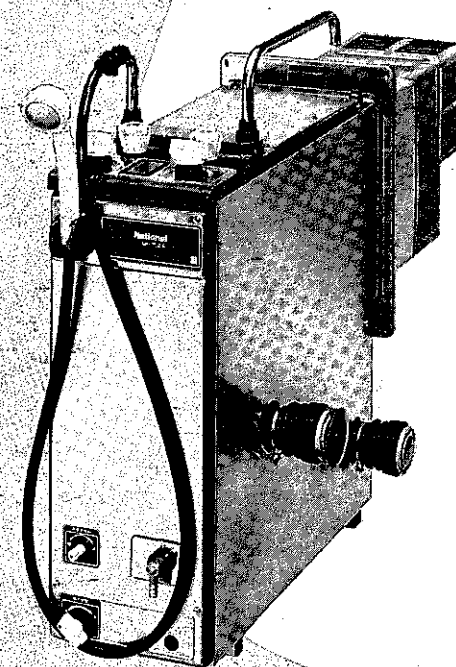


National

工事説明書

工事をされる方へのお願い

この器具を正しく安全にご使用いただくために、
この説明書をよくお読みになって、指定された
工事を行なってください。
この説明書は必ず需要家様にお渡しください。



ナショナル シャワー給湯付 **ガスふろがま**

LPガス用 **GF-702A(P)**

都市ガス用 **GF-702A(G)**



松下電器産業株式会社



松下電器産業株式会社
松下住設機器株式会社 ガス機器事業部
〒639-11 奈良県大和郡山市筒井町800番地
電話 大和郡山 (07435)-6-1121(大代表)

Y1279-0

79.12~

目 次

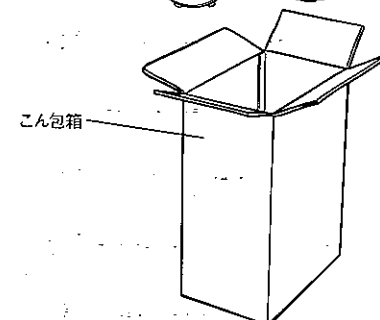
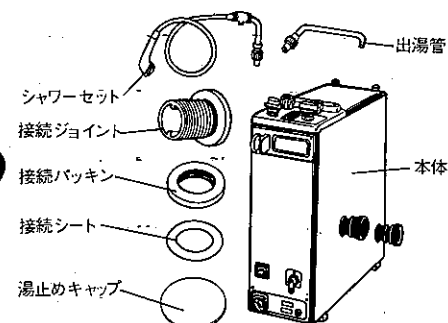
■開こん	1
■設置前のご注意	2
■器具および給排気筒の設置	9
■給水・給湯配管	15
■ガス配管工事	16
■設置工事後の点検確認	17
■試点火および試運転	18
■仕様	19
■各部の名称	20
■外形寸法図	21

■開こん

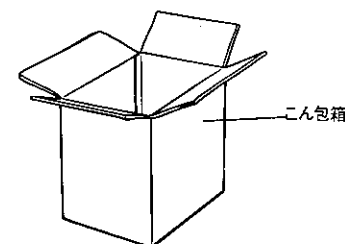
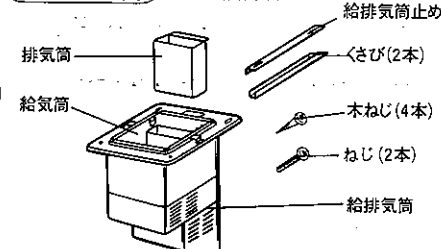
■開こんの方法および注意

●こん包箱から付属部品、器具の順序で取り出してください。

〔ご注意〕器具などにきずを付けたり、変形させないように、注意して取り出してください。



給排気筒側別棚部品



●付属部品

部 品 名	形 状	数 量
湯止めキャップ		1
接続ジョイント		2
接続バックシン		2
接続シート		2
出 湯 管		2
シャワーセット		1
ニ ッ プ ル		1
給 排 気 筒		1
給 気 筒		1
排 気 筒		1
給排気筒止め		1
く さ び		2
木 ね じ	給排気筒止め固定 給排気筒固定	2 2
ね じ	排気エルボ固定 給気筒固定	1 1

●別販部品

木 枠		1
-----	--	---

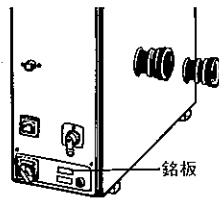
■設置前のご注意

■設置する器具の確認

- 設置する器具がご使用になる目的・用途に適合していることを確認してください。

- 器具(銘板)に表示してあるガス(ガスグループ)以外のガスでは使用しないでください。

〔注〕銘板は器具正面の下部に貼ってあります。



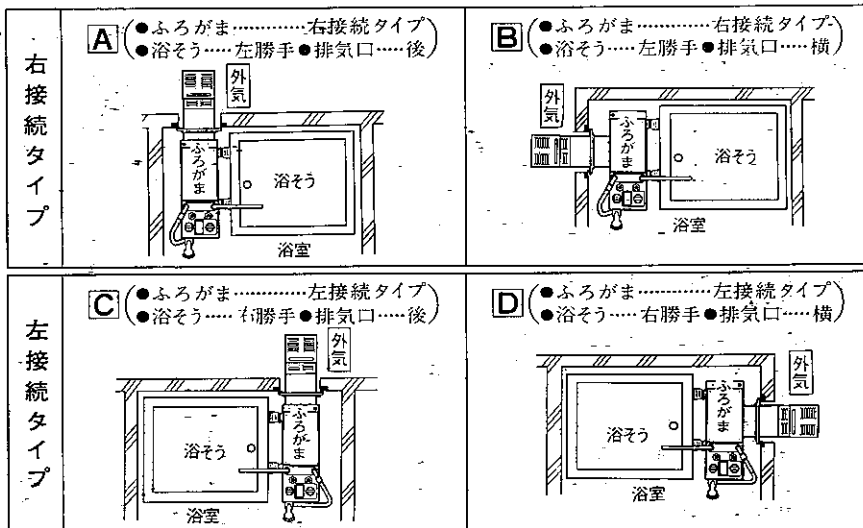
〔注〕この部分を必ずご確認ください。
〔銘板〕

密閉燃焼式ふろがま 型式 GF-702A(P) LPガス用 ガス消費量 0.58 kg/h	ガスバーナー付ふろがま 型式 GF-702A(B) 都市ガス用 ガス消費量 0.58 kg/h
松下住設機器株式会社 松下電産株式会社	松下住設機器株式会社 松下電産株式会社

LPガス	4A・4B・4C	5C
都市ガス (ガスグループ)	5A・5B・5C	7C
	11A・12A・13A	

■設置場所の確認

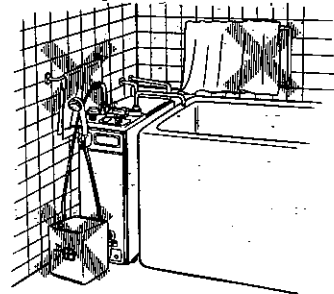
- ふろがまの取付位置は、下記の4通りです。Aタイプ・Bタイプ・Cタイプ・Dタイプのいずれかを、浴そうおよび外気の位置に合わせてお選びください。



〔注〕取り付けA Bの場合は右接続タイプで左接続タイプは取り付けできません。
取り付けC Dの場合は左接続タイプで右接続タイプは取り付けできません。

(1) 火災予防上について

- ガソリン・接着剤などの引火性危険物を扱う場所には設置しないでください。
- 器具および給排気筒を設置する場所の周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔を取ることができるか確かめてください。
(詳しくは3ページをお読みください)



(2) 給排気について

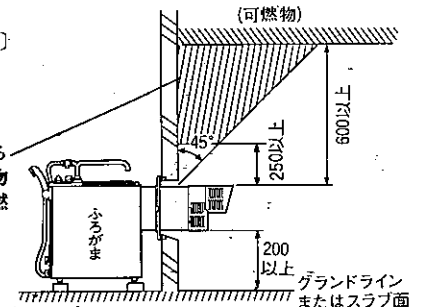
給排気筒の設置条件

- 空気の取り入れ、排気の排出は外気に突き出した給排気筒から行ないますので、給排気筒を設置するにあたって下記の条件を満足しているか確かめてください。
- 隣接建物のある場合は、給排気筒のすぐ上の窓などに排気が流入したりすることのないような処置をしてください。
- 豪雪地帯で設置する場合は、給排気筒の周囲に積雪を考慮した処置を施してください。

外壁設置(BF-W方式)の設置条件 [単位: mm]

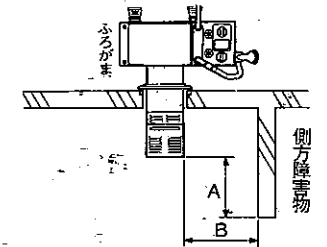
- 前方に給排気を阻止する障害物がない場合
の上方および下方条件。

上方の障害物はこの範囲から出ないこと。また、その障害物の排気に接する部分は、不燃材料にすること。



- 前方に給排気を阻止する障害物がない場合
の側方条件。

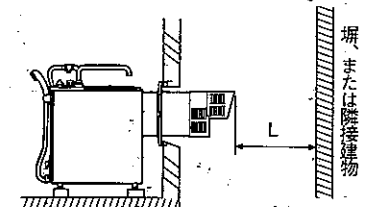
A	B
400未満	800以上
400以上	220以上



- 上方、下方および側方に障害物がない場合
の前方条件。

〔注1〕Lは600mm以上とする。ただし、前方障害物が不燃性の場合は150mm以上とする。

〔注2〕外壁設置方式の特殊設置、およびチャンバー方式の設置条件は、日本瓦斯協会が出版している「ガス機器の正しい設置について」をご参照ください。



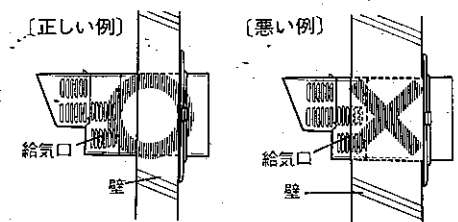
壁の厚みと給排気筒の出代

- 壁厚が190mm以下の場合は200型の給排気筒を使用してください。壁厚が190mm～290mmの場合は300型の給排気筒を使用してください。

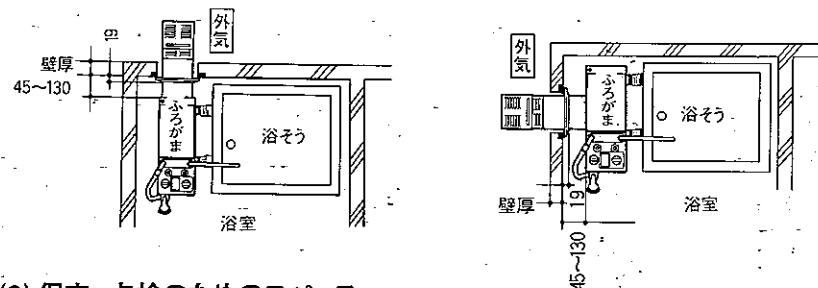
〔ご注意〕190mm以上の壁厚に200型の給排気筒を取り付けますと不完全燃焼などの異常がおきますので、190mm以上の壁には200型は絶対に使用しないでください。

給排気筒	壁 厚	品 番
200型	50～190mm	GF-70B-T20
300型	190～290mm	GF-70B-T30

- 給気口が壁端から出るかをお確かめください。



- ふろがま本体から壁までの間は45～130mmの範囲で調節できます。この範囲でふろがまが取り付けられるか確かめてください。



(3) 保守・点検のためのスペース

- 器具の点検・修理ができるよう十分なスペースを確保してください。
(詳しくは4・8ページをお読みください)

■付帯設備工事について

- 設置場所が決まりましたら器具および給排気筒を設置する前に次の工事がが必要です。

(1) 床・壁工事

- 床および壁の工事をする前に、次の点に注意してください。

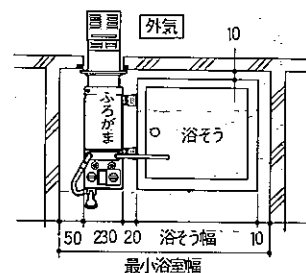
浴室の幅

- ふろがまを浴室に取り付けますので、ふろがまの設置ができるだけの広さ(最小浴室幅)があるか確かめてください。

最小浴室幅(mm)

$$= (50 + 230 + 20 + 10) + \text{浴そう幅} \\ = 310 + \text{浴そう幅}$$

〔参考〕公団サイズの浴そうは、一般に浴そう幅が800mmで、奥行は700mmとなっています。

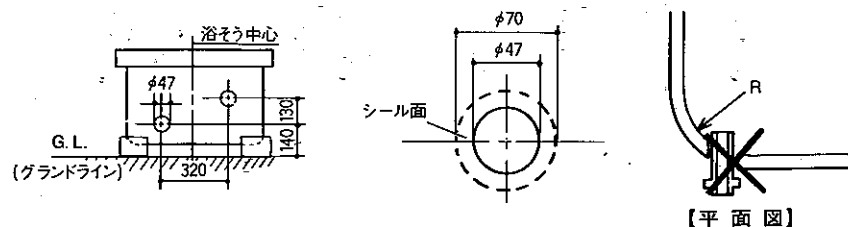


浴そうの選択

- 樹脂製・ステンレス製、またはホーロー製の浴そう以外は取り付けができませんので、ふろがまを取り付けられる前に確かめてください。

- 浴そうはバランス型専用の浴そうを選んでください。バランス型専用の浴そうがない場合は、次の位置に穴を開けてください。

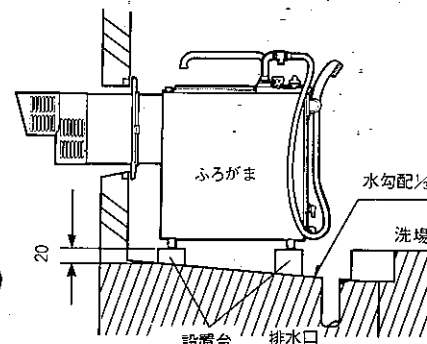
〔注〕φ47の穴の外周シール面が平面に開けることのできないようなRの大きい浴そうは使用しないでください。



【平面図】

ふろがま・浴そうの設置台の高さ

- 床面には、ふろがまと浴そうの設置台を必ず設けてください。
- 床面は排水口に向かって傾斜していますので、設置台の上面は水平に仕上げてください。
(公団では水勾配は1/30です)

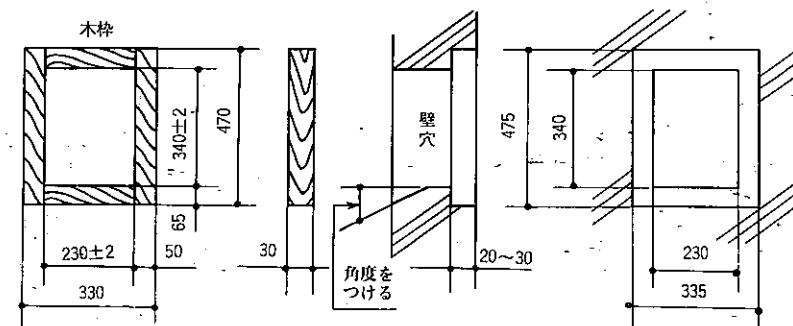


設置台の高さ ふろがまの接続穴位置	ふろがま台	浴そう台
140	20	20
150	20 (最小寸法)	10
130		30

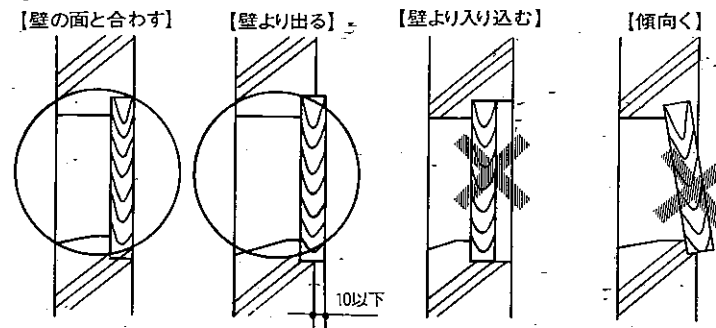
※公団サイズ浴そうのh(高さ)は140mmです。

木枠の大きさ

- 木枠の大きさおよび壁穴の大きさは、次の通りです。



- 木枠の面と壁面を合わせ、木枠の出代が10mm以下になるよう壁穴に埋め込んでください。

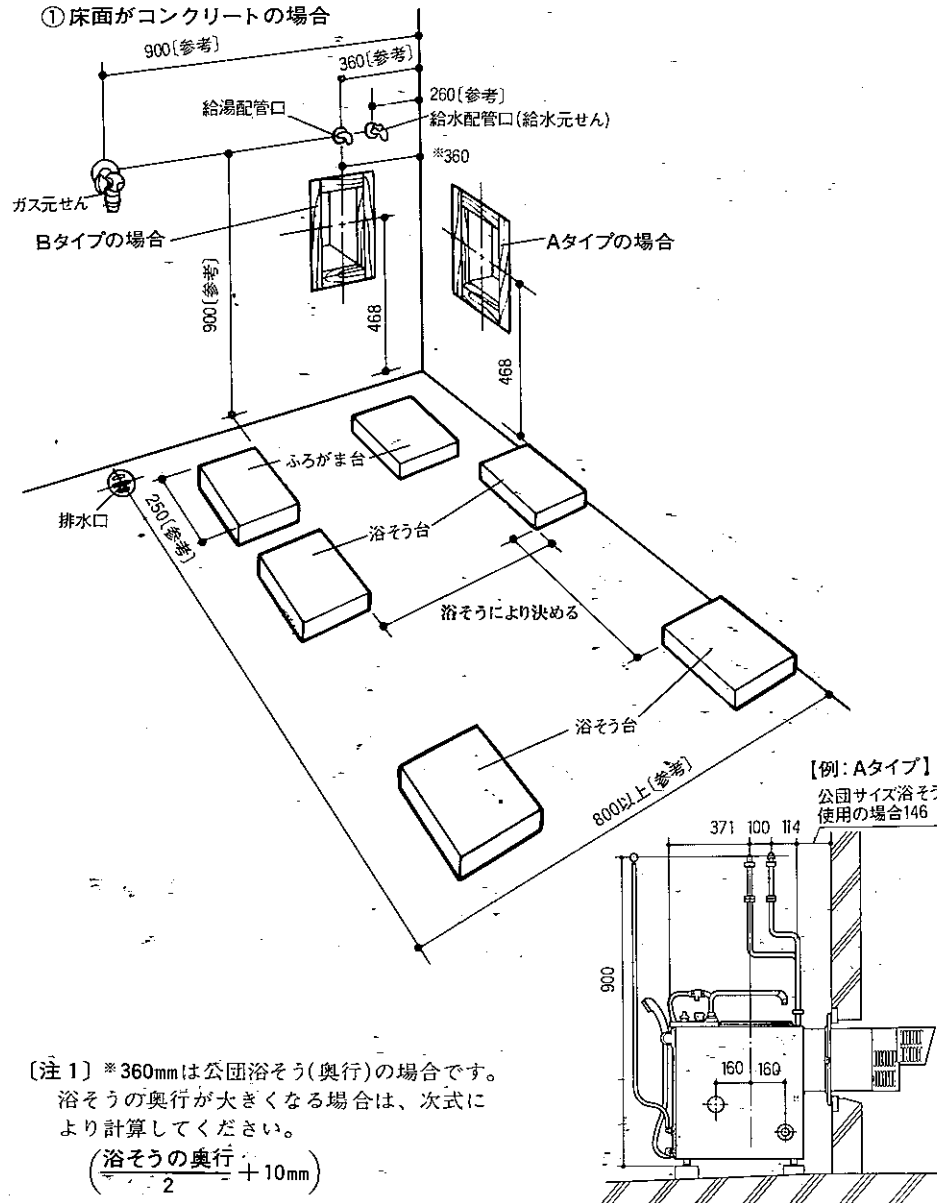


〔注〕木枠が壁より入り込んだり、傾いたりしないよう壁穴に埋め込んでください。

取合い寸法

●設置台・木枠・給水元せんおよびガス元せんの位置は、次の通りです。

①床面がコンクリートの場合



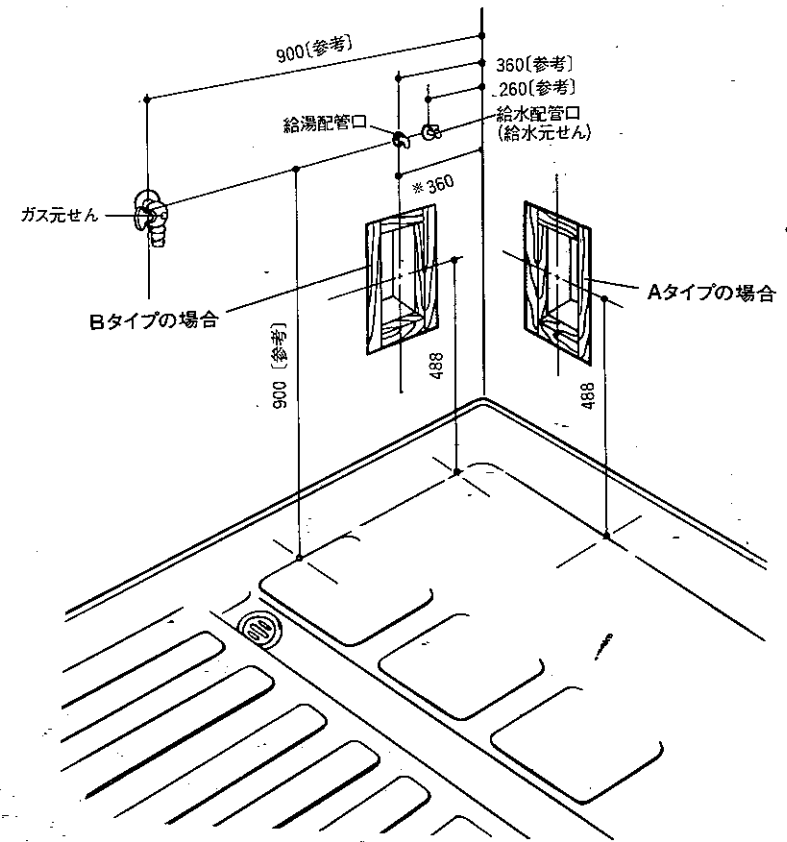
[注1] *360mmは公団浴そう(奥行)の場合です。
浴そうの奥行が大きくなる場合は、次式により計算してください。

$$\left(\frac{\text{浴そうの奥行}}{2} + 10\text{mm} \right)$$

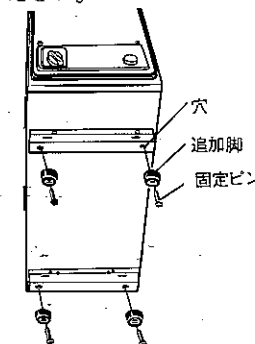
[注2] 左接続タイプのふろがま(C・Dタイプ)の取付けの場合は、上図の逆(この工事説明書を裏側から見て)に工事してください。

[注3] ふろがまおよび浴そうの下に排水口を設けないでください。詰まったときに掃除できません。

②床面が樹脂(防水パン)の場合



●床面が樹脂の場合は、必ずふろがまの脚に追加脚(高さ20mm・4コ)としゃ熱板を取り付けてください。(取付け方は下図を参照してください)
なお、追加脚およびしゃ熱板は別販となっておりますので、ふろがまと合わせて注文してください。



◎追加脚の取付け方

追加脚をふろがまの脚の穴に差し込んだのち、固定ピンを追加脚の穴に十分差し込んで固定してください。

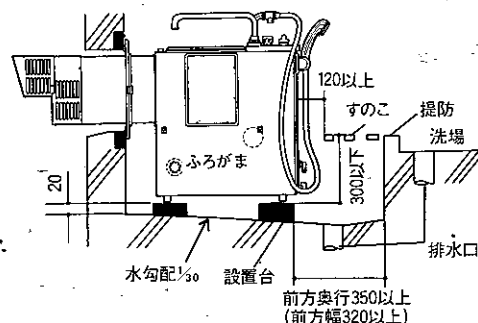
[注] 追加脚をふろがまに取り付けますので、木枠の中心位置は床上面より488mmになります。

◎しゃ熱板の取付け方



落とし込み設置

- ふろがまを落とし込む場合には、ふろがまの取りはずし、バーナー部の引き出しなどに支障のないように、ふろがまの前方を開けてください。



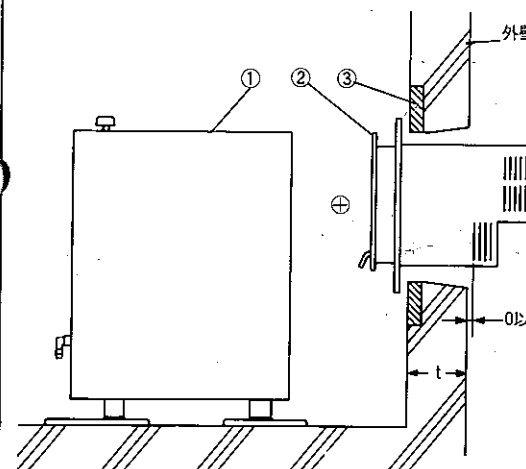
- [注1] ふろがまの前方奥行は350mm以上、前方幅は320mm以上開けてください。
- [注2] ふろがま・浴そうの設置台を設けてください。
- [注3] 排水口は2カ所設けてください。
- [注4] ふろがま・浴そうの下に排水口を設けないでください。
- [注5] 洗場の水がふろがま・浴そうに流れ込まないよう堤防を設けてください。
- [注6] ふろがま前方の空間部にすのこを置いてください。
- [注7] ふろがまと、すのこの間は120mm以上開けてください。
- [注8] すのこは取りはずしができるようにしてください。

器具および給排気筒の設置

給排気方式

- バランス式ふろがまの給排気方式には次の方式がありますので、本体の他に各方式の給排気筒をご使用ください。なお、外壁設置以外の給排気筒は別販となっております。

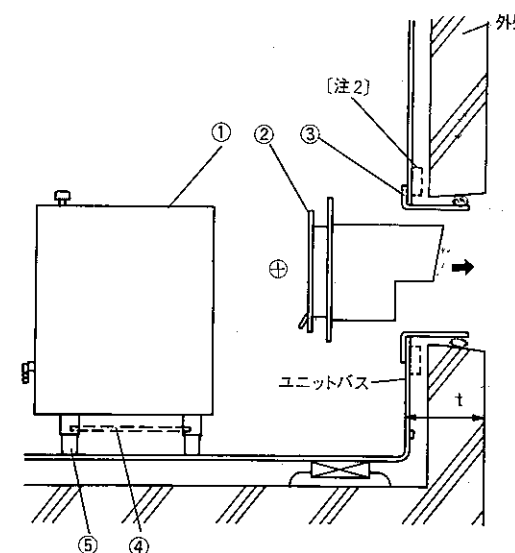
(1) 外壁設置 (BF-W方式)



No.	名称	品番	備考
①	本体	GF-702A	—
②	給排気筒 (BFトップ)	GF-70B-T20 (200型)	別梱
		GF-70B-T30 (300型)	
③	木 枠	GF-70B-WF	別販

[注] 壁厚(t)により②を選択してください。
(詳しくは3ページを参照ください)

(2) ユニットバス設置 (BF-W方式のユニットバス設置)

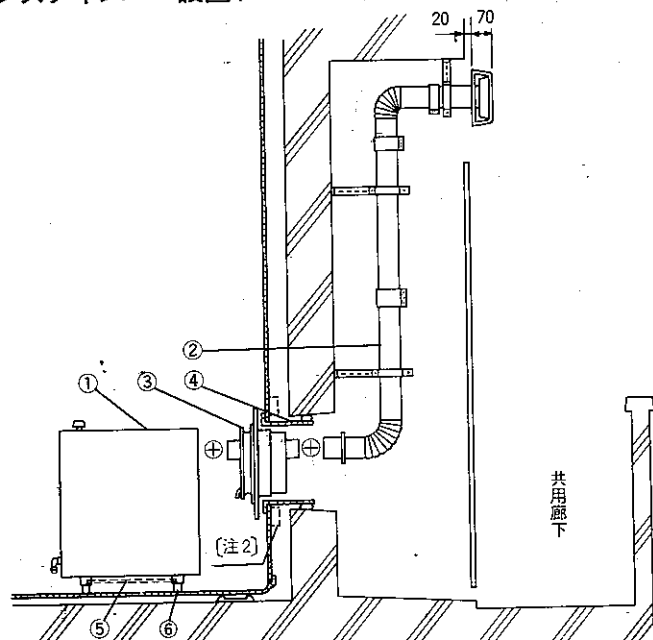


No.	名称	品番	備考
①	本体	GF-702A	—
②	給排気筒 (BFトップ)	GF-70B-T20 (200型)	別梱
		GF-70B-T30 (300型)	
③	接続筒	GF-P4	別販
④	しゃ熱板	GF-P5	別販
⑤	追加脚	接続筒③の中に入っています。	

[注1] 壁厚(t)はユニットバスも含めての厚さとなりますので、注意してください。

[注2] ユニットバスの強度などにより、本枠を裏側に接着して「下地サン」とする場合もあります。

(3) バランスチャンバー設置(BF-C方式)

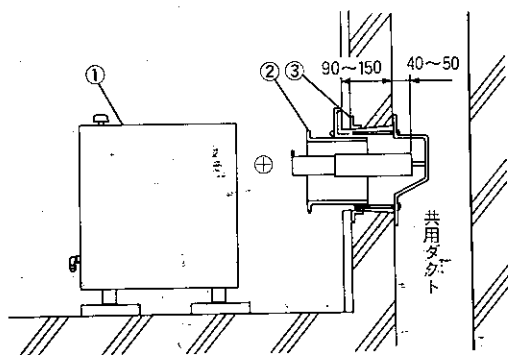


No.	名 称	品 番	備 考
①	本 体	GF-702A	—
②	BF-C セット	AD-2214BF	別販
③	BF-C給気筒セット	GF-P3-2	別販
④	接 続 筒	GF-P4	別販
⑤	し ゃ 熱 板	GF-P5	別販
⑥	追 加 脚	接続筒④の中に入っています	

〔注1〕ユニットバスを使用しない場合には④・⑤・⑥は不要です。
また、この場合には(1)外壁設置の場合の「木枠」が別に必要となりますのでご注意ください。

〔注2〕ユニットバスの強度などにより、「木枠」を裏側に接続して「下地サン」とする場合もあります。

(4) 共用給排気筒設置(Uダクト・SEダクト方式)



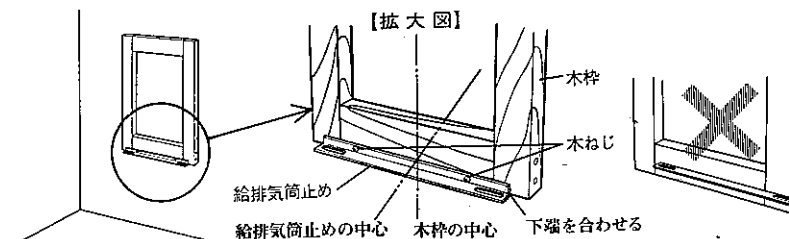
No.	名 称	備 考
①	本 体	—
②	ダクト給気筒セット	別 販
③	金 枠	別 販

■外壁設置の場合の器具および給排気筒の設置

Aタイプの場合(Cタイプの場合は浴そうが逆になります)

(1) 給排気筒止めの取付け

- 給排気筒止めを木枠の下側に木ねじで固定してください。
 - 木枠の中心と給排気筒止めの中心が合うようにしてください。
 - 木枠の下端と給排気筒止めの下端が合うように取り付けてください。
- 〔注〕給排気筒止めを逆に取り付けしないでください。



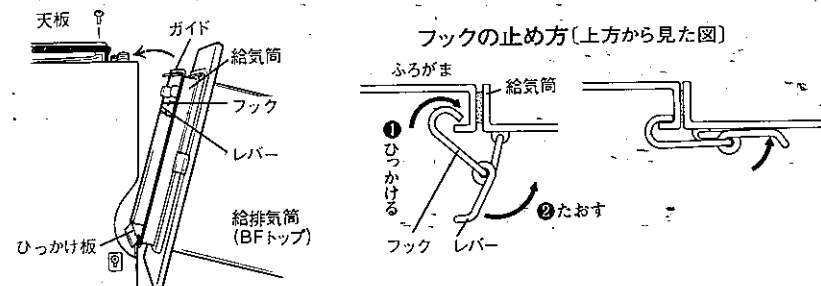
(2) 給気筒の取付け

- 天板をはずし(ビス4本)、給気筒のひっかけ板をふろがまの内側に差し込んだのち、給気筒上部のガイドをふろがまに押し込み、左右のフックをふろがまの折曲部にひっかけ、レバーを「パチン」と音のするまで倒して固定してください。(拡大図を参照)

〔注1〕ひっかけ板をふろがまの外側に出さないでください。

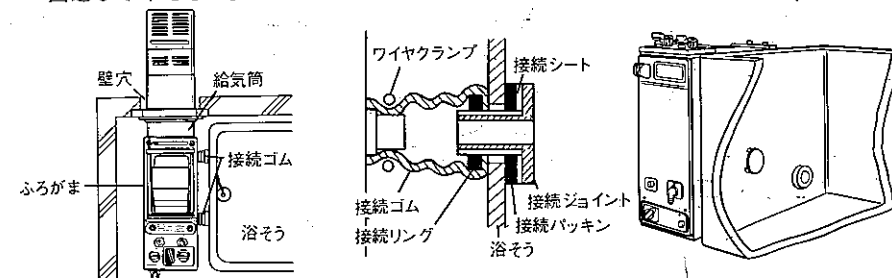
〔注2〕給気筒を給排気筒からはずさないでください。

〔注3〕確実に固定されたかどうかを給気筒を動かして確かめてください。



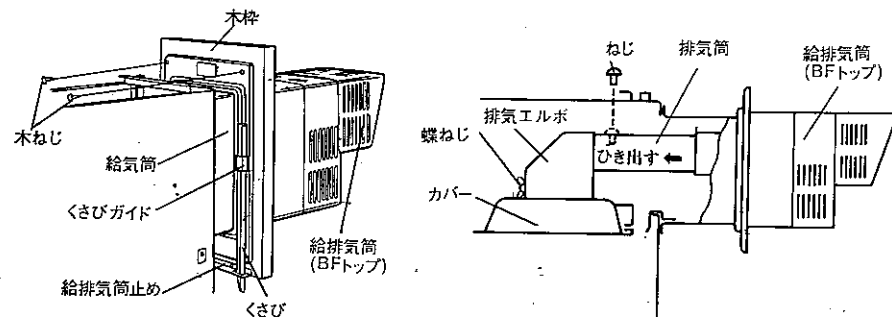
(3) ふろがまの取付け

- 浴そう内から接続ジョイントを接続リングにねじ込んだのち、湯口側は湯止めキャップを固定してください。



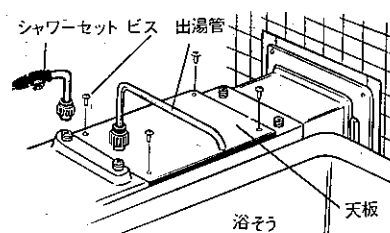
(4) 給排気筒および排気エルボの固定

- ふろがまと浴そうを接続したあと、給排気筒を後方の木枠に当るまでずらしてください。
- 給排気筒の上部は、木ねじで木枠に固定するとともに、下部はくさびをくさびガイドに通し、給排気筒止めに差し込んで給排気筒を固定してください。
- 排気筒を手前に引き出し、排気エルボと接続し、ねじで固定してください。
- 排気エルボをカバーに確実に合わせて、もとの蝶ねじで止めてください。



(5) 天板の取付け、およびシャワー・出湯管の取付け

- 給排気筒を固定したあと、天板を取り付けてください。(ビス4本)
 - 浴そう側に出湯管を、その反対側にシャワーセットを取り付けてください。
- [注] 天板のシールゴムと本体のすき間があかないよう確実に締まったことを確かめてください。

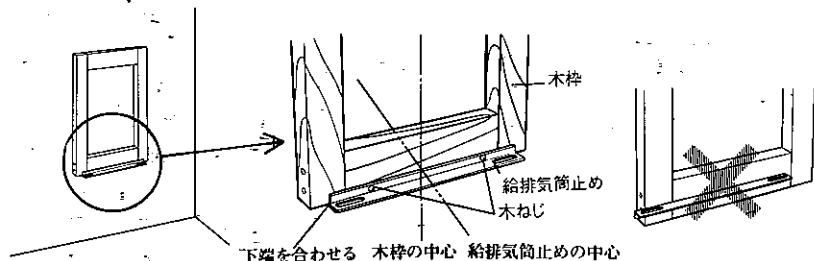


Bタイプの場合(Dタイプの場合は浴そうが逆になります)

(1) 給排気筒止めの取付け

- 給排気筒止めを木枠の下に木ねじで固定してください。
 - 木枠の中心と給排気筒止めの中心が合うようにしてください。
 - 木枠の下端と給排気筒止めの下端が合うように取り付けてください。
- [注] 給排気筒止めを逆に取り付けしないでください。

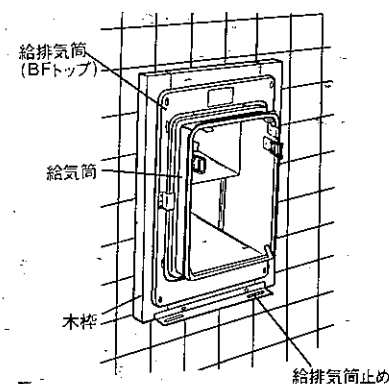
[拡大図]



(2) 給排気筒・給気筒および排気筒の取付け

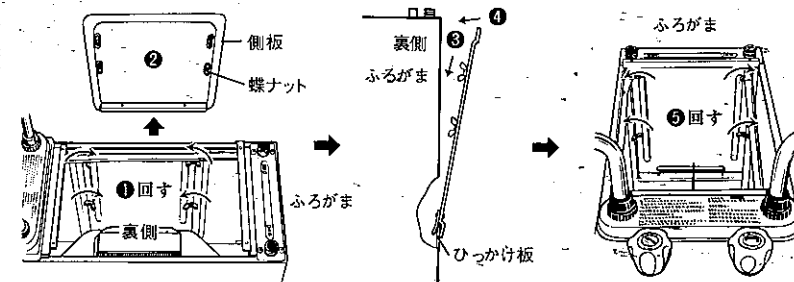
- 給排気筒・給気筒および排気筒を組み込んだのち、壁穴に差し込んでください。
- [注1] 給気筒を逆に組み込まないでください。
- [注2] 浴そうをセットする前に給排気筒を壁穴に差し込んでください。

[取付完了図]



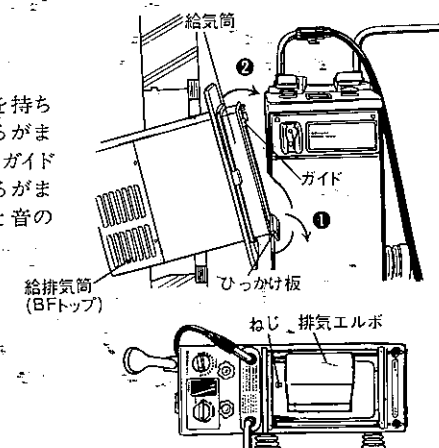
(3) ふろがま側板の位置変更

- 天板をはずし、ふろがま内側より側板固定用蝶ナット(4コ)を矢印方向に回したのち、側板を手で上方に引き抜いてください。
 - 引き抜いた側板をふろがま裏側に取付けてください。取付け方は側板下部のひっかけ板をふろがまに差し込んだのち、蝶ナット(4コ)を矢印方向に回せば取り付けられます。
- [注1] ひっかけ板をふろがまの外に出さないでください。
- [注2] 蝶ナットをふろがまの突起部に当るまで時計方向に回してください。

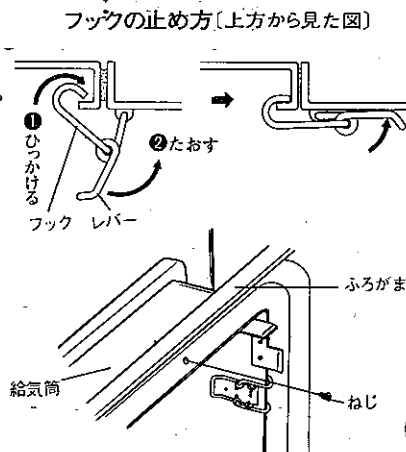


(4) 給気筒の取付け

- 排気エルボをいったんはずしてください。
- ふろがまをふろがま台の上にのせ、給気筒を持ち上げぎみにし、給気筒のひっかけ板をふろがまの内側に差し込んだのち、給気筒の上部のガイドをふろがまに押し込み、左右のフックをふろがまの折曲部にひっかけて、レバーを“パチン”と音のするまで倒して固定してください。



- 付属のねじでふろがま本体と給気棒の上部を締め付けてください。
- 接続ゴムの穴と浴そうの穴を合わせてください。
[注1] ひっかけ板はふろがまの外側に出さないようにしてください。
[注2] 確実に固定されたかどうかを、給気筒を動かして確かめてください。

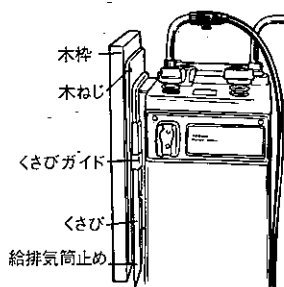
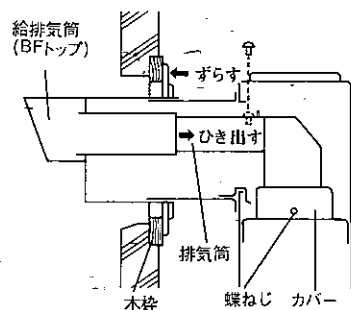


(5) ふろがまの取付け

- Aタイプの場合**の11ページを参照してください。

(6) 給排気筒および排気エルボの固定

- ふろがまと浴そうを接続したあと、給排気筒を側方の木枠に当るまでずらしてください。
- 給排気筒の土部は木ねじで木枠に固定するとともに、下部はくさびをくさびガイドに通して、給排気筒止めに差し込んで給排気筒を固定してください。
- 排気筒を手前に引き出し、排気エルボと接続し、ねじで固定してください。
- 排気エルボをカバーに確実に合わせて、もとの蝶ねじで止めてください。



(7) 天板の取付けおよびシャワー・出湯管の取付け

- Aタイプの場合**の12ページを参照してください。

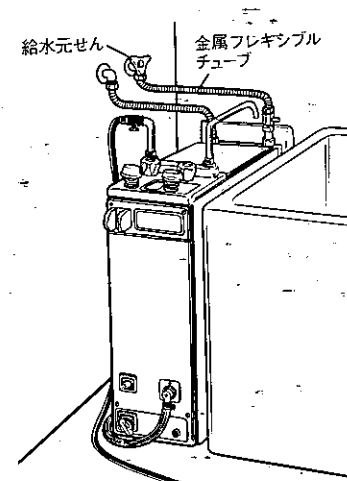
■給水・給湯配管

- 配管工事は給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。
- 給水圧がシャワー希望水圧(0.8kg/cm²)があるか確かめてください。
- 2階に給湯される場合は給水圧力は位置水頭をプラスしてください。
(例: 高さ5mの位置に給湯する場合、位置水頭は0.5kg/cm²になります)

●給水・給湯接続口径

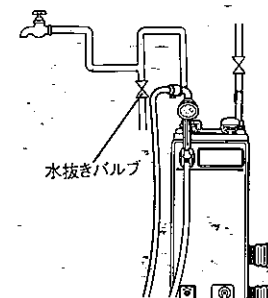
給水接続口	15A (PT $\frac{1}{2}$ B)	給湯接続口	15A (PT $\frac{1}{2}$ B)
-------	--------------------------	-------	--------------------------

- ふろがまに給水管を接続する前に、給水配管内に入り込んだ“切り粉・砂”などの異物を取り除くために水を流し、給水配管内をきれいにしてください。
- 給水管とふろがまの給水接続口とを接続してください。
(給水接続口には付属の水フィルターを必ず取り付けてください)
- 他の場所(洗面所など)へ給湯する場合、給湯管を保温材で被覆し、ふろがまの給湯接続口と接続してください。
- 給湯配管は原則として3m以内にしてください。
- 保守・点検をしやすくするために、給水配管は金属フレキシブルチューブを使用してください。
- 給湯配管には空気だまりを作らないようにしてください。配管中に空気だまりがあると、給湯せんを閉めてから給湯器のメインバーナーが消火するまでに時間がかかったり、給湯器を使用しないのに、他の給水元せんを開閉すると、給湯器のメインバーナーに瞬間的に火がつくなどの現象が生じるおそれがあります。
- 給湯配管に塩ビ管・鉛管を使用することは絶対に避けてください。
(使用している間に破裂する危険性があります)
- 給水元せんを必ず取り付けてください。



■凍結防止

- 器具および給湯配管内の水が抜ける配管工事をしてください。
(やむをえず水抜きができないような工事になったときには、右図のような水抜きバルブを取り付けてください。)

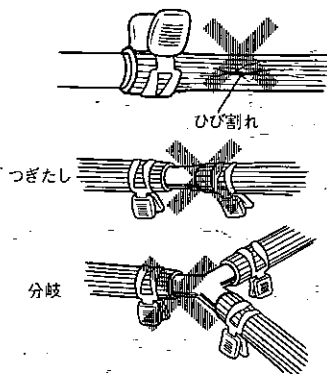
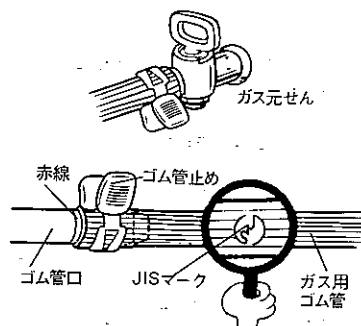


■ガス配管工事

●ガス配管径とゴム管接続は次の通りです。

	ガス配管径 (ガスボンベからガス元せんまで)	ゴム管接続 (ガス元せんから器具ゴム管口まで)
LPガス用	φ10mm銅管(内径)またはガス管 $\frac{3}{8}$ "以上	φ9.5mmガス用ゴム管
都市ガス用	ガス管 $\frac{3}{4}$ "以上	φ13mmガス用ゴム管

- ガス元せんを必ず設置してください。
 - ゴム管はガス元せんおよび器具のゴム管口の赤線まで差し込み、ゴム管止めでしっかり止めてください。
 - ゴム管はガス用ゴム管(JISマーク、または年号の入っているもの)を使用し、ビニル管は熱に弱いので絶対に使用しないでください。
 - ゴム管はひび割れ、軟化、硬化など老化したものを使用しないでください。
 - ゴム管は、折れ、引張りなどの力がかからないようにし、長さは2m以下にしてください。なお、ゴム管は踏みつけられないように接続してください。
 - ゴム管は薬品、油などで損傷を受けないように接続してください。
 - ゴム管はバーナーからの放射熱や排気を直接受けないように接続してください。また、ゴム管をふろがまの高温部に触れた状態で接続しないでください。
 - ゴム管のつぎだし、または分岐は行なわないでください。
- 【注】2台以上の器具を常時使用する場合は、ガス元せんをそれぞれ新たに設けてください。
- LPガスの場合は、50kg型的气体容器を使用してください。
 - ゴム管は、他の部屋から使用する部屋まで延長したり、壁・天井・床などを貫通して使用しないでください。

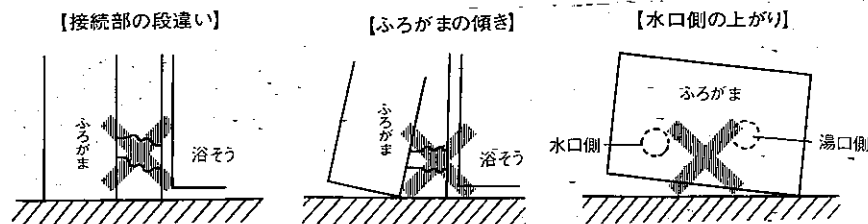


■設置工事後の点検確認

設置および工事が終わりましたら、もう一度確かめてください。

■器具およびその周辺

- 可燃物との距離および防火上の処置は十分か確かめてください。
(詳しくは2～3ページをお読みください)
- 点検・修理などに必要な空間があるか確かめてください。
(詳しくは2～4ページをお読みください)
- 設置した器具が使用するガス(ガスグループ)に適合しているか確かめてください。
- ふろがまを傾けて取り付けますと、かま鳴りをすることがありますので、傾きを直してください。



- ふろがまと浴そうとの接続部や、浴そうの排水せんから水漏れをしていませんか。
(詳しくは11ページの「器具および給排水筒の設置」をお読みください)

■給排水筒

- 排気筒がはずれていませんか
(詳しくは12・14ページの「給排水筒および排気エルボの固定」を参照)
排気筒がはずれていたり、排気エルボがはずれていたりすると、不完全燃焼をおこしますので確かめてください。
- 給排水筒の給気口が壁にうまっていませんか。
(詳しくは3ページの「(2)給排水について」をお読みください)
給気口が壁にうまっている場合は、不完全燃焼などをおこしますので確かめてください。
- 天板・給気筒・給排水筒などはしっかり取り付けていますか。
(詳しくは9～14ページの「器具および給排水筒の設置」をお読みください)
天板・給気筒・給排水筒などの密着が悪いと気密性が悪くなりますので、しっかり取り付けてあるか確かめてください。

■ガス配管

- ゴム管接続部・ガス配管部からガス漏れがないか、石けん水などで確かめてください。
- ガス圧力が適正か確かめてください。 [単位: mm H₂O]

ガス圧力	4A	4B	4C	5A	5AN	5B	5C	6A	6B	6C	7C	11A	12A	13A	LPガス
最高圧				200				220		200			250		330
標準圧				100				150		100			200		280
最低圧				50				70		50			100		200

■給水・給湯配管

- 給水配管・給湯配管部から水漏れをしていませんか。
(詳しくは15ページの「給水・給湯配管」をお読みください)

■試点火および試運転

■試点火および試運転

- 取扱説明書に基づき、試点火および試運転を行ってください。
(詳しくは取扱説明書の6ページの「使用方法」を読んでください)
- 初期運転時に異常が発生しましたら、取扱説明書の11ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照しながら確かめてください。

■お客様への説明

- 取扱説明書に従って「使用方法」を説明してください。特に取扱説明書の1～3ページに記載の「特に注意していただきたいこと」をよく説明してください。
- 保証書に必要な事項を記入のうえ、お客様に取扱説明書に従って「アフターサービス」について説明してください。
- この工事説明書は、必ず取扱説明書・保証書とともにお客様に渡してください。

■仕様

器 種 名	ガスシャワー給湯付ふろがま	
型 式 の 呼 び	GF-702A	
本 体 外 装	ステンレス製	
種 類 ・ 型 式	外がま・BF式	
点 火 方 式	圧電点火装置	
水 圧	使 - 用 水 圧	給湯: 0.5 kg/cm ² 以上、シャワー: 0.8 kg/cm ² 以上
	作 動 水 圧	0.5 kg/cm ²
外 形 寸 法	高さ 638mm × 幅 230mm × 奥行 608mm	
重 量	25 kg (含む 200型用給排気筒)	
循 環 管 取 付 口 径	PF 1½	
接 続	給 水	15A (PT½B)
	給 湯	15A (PT½B)
給 排 気 筒	壁貫通部穴径 (幅 230mm × 高さ 340mm)	
基 準 浴 ぞ う	200～300ℓ (1～2人用)	
安 全 装 置	パイロット安全装置・空だき安全装置・過熱防止装置・過圧逃し弁	
付 属 部 口	湯止めキャップ(1コ)・接続ジョイント(2コ)・接続パッキン(2コ)・接続シート(2コ)・出湯管(1コ)・シャワーセット(1セット)・ニップル(1コ) [別梱部品は4ページ参照]	

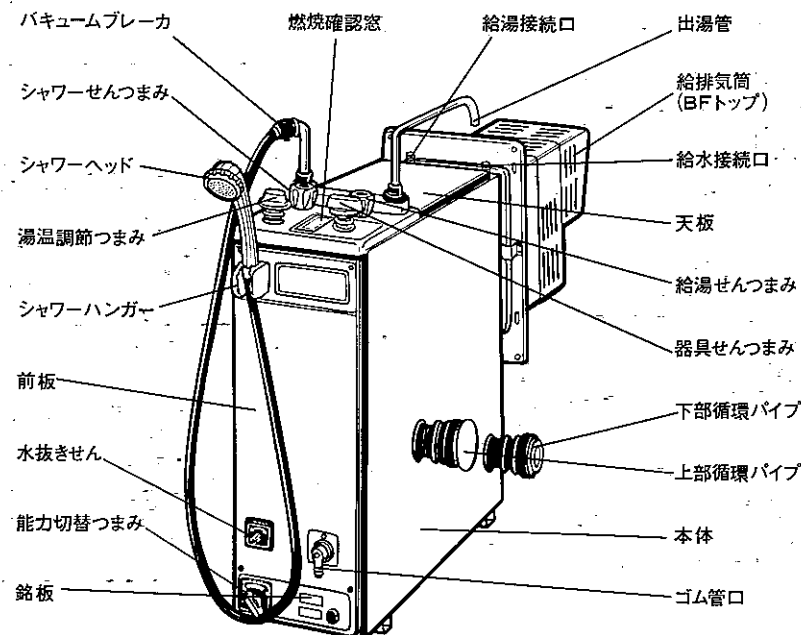
使 用 ガ ス 使用ガスグループ	型 式 の 呼 び	1 時 間 当 り の ガ ス 消 費 量 (kcal/h)			出 湯 能 力 (ℓ/min) [水 圧: 1 kg/cm ²]		ガス接続口
		「風呂」	給 湯	同時使用	大	大	
都 市 ガ ス 用	5 C	7000	13200	19000	7.0	4.3	φ 13mm ガス用ゴム管
	6 A	7000	13200	19500	7.0	4.3	
	6 B	7000	13200	19500	7.0	4.3	
	6 C	7000	13200	19500	7.0	4.3	
	7 C	7000	13200	19500	7.0	4.3	
	1 1 A	7000	13200	19700	7.0	4.3	
	1 2 A	7000	13200	19700	7.0	4.3	
	1 3 A	7000	13200	19700	7.0	4.3	
L P ガ ス 用	GF-702A(P)	0.58kg/h	1.12kg/h	1.67kg/h	7.0	4.3	φ 9.5mm ガス用ゴム管

上記ガス種以外への転換はできません。

■別販部品

給排気筒の設置方式によって、それぞれの部品を別売しております。種類・品番などの詳しいことは9～10ページと、ふろがまのカタログに記載しております。

■各部の名称

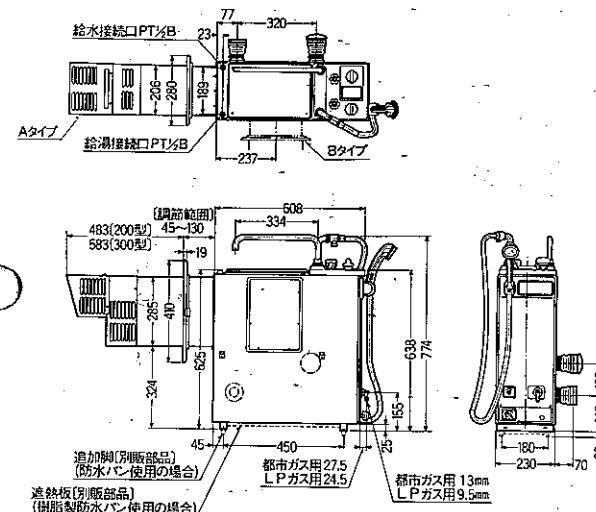


〔注〕上図はAタイプの場合です。B・C・Dタイプの場合は取付方向などが一部変わります。詳しくは21ページの「外形寸法図」を参照してください。

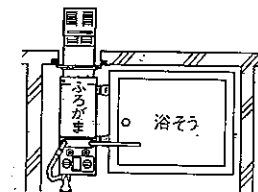
■外形寸法図〔単位：mm〕

●右接続タイプの場合(Aタイプ・Bタイプ)

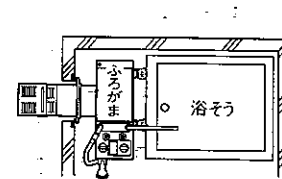
AタイプとBタイプは現地で交換できます。



Aタイプ

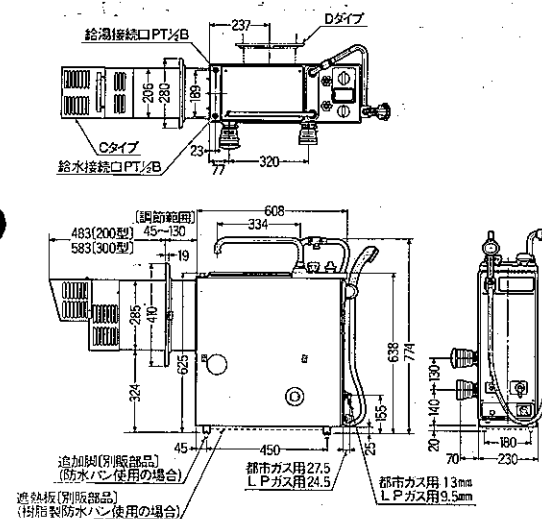


Bタイプ

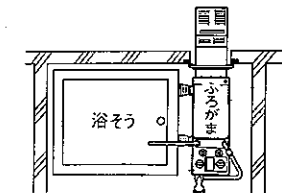


●左接続タイプの場合(Cタイプ・Dタイプ)

CタイプとDタイプは現地で交換できます。



Cタイプ



Dタイプ

